



道々及後如來問答

左集集歌多指公使

去回法師上主之知

四我披華一五約言

考子多集寫心之知

以之及心之知也

九年十一月一日

幸島お孫御

大隈古徳御殿



吉田公使内状校筆

我國ニ於テハ貴國ノ益々隆盛ニ赴キ其國權ノ益々擴張スルヲ冀ヒ而メ又方今貴政府經費多端ニシテ之ヲ補フニ歳入額ヲ増スヲ要トスルヲ知ル故ニ我國ハ貴國ノ財政ヲ調理スルカ為ニ或ハ自由貿易ヲ許ストモ或ハ保護稅ヲ設ルトモ唯貴政府ノ意ニ隨テ適宜ノ良法ヲ制セラレシテ欲スルモ先ツ我國ノ官民并其貿易ノ保護如何ヲ注意セサルヲ得ス若シ夫レ獨リ我國ノミ閣下ノ奏題ニ同意シ各國ハ之ニ同意セス我國ヨリ輸送スル物品ニシテ若シ加稅ヲ課

外務省

セラレ、アアラハ(仮令一分ニテモ)米國ノ貿易品ハ忽チ之カ為ニ全ク貴國ノ市場ヨリ除却セラレ、ニ至ルハ判然タリ且ツ閣下云フ我米國ノ物品ニ他國物品ニ課スルモノヨリ高稅ヲ課セサルノ事ハ閣下之ヲ保証シ難シト夫レ如斯ナレハ縱令我國ニ輸入スル貴國物品ノ輸出稅ヲ廢シ更ニ海港ヲ開クモ到底我ニ利ナシ賣ラスシテ買フハ我之ヲ為サス又我國ノ物品ヲ貴國市場ヨリ除却セラレ、ノ事アラシメシヨリ寧ロ我カ為ニハ貴國ノ諸港ヲ我米國人ニ鎖サル、ニ若ス此事情ナルヲ以テ他國ノ共ニ此奏題ニ同意スル歟又ハ我米國ノ物品ヲシテ他國物品ヨリ高稅ヲ課セサルトノ事即我國物品ニ稅額ヲ區

別セサルノ保証ヲ得ルニ非レハ我國ニ於テ閣下ノ奏題ニ同意スルヲ得サルヲ明ナリ閣下宜

ス此事情ナルヲ以テ他國ノ共ニ此発題ニ同意
スル歟又ハ我米國ノ物品ヲシテ他國物品ヨリ
高稅ヲ課セサルトノ事即我國物品ニ稅額ヲ區

別セサルノ保証ヲ得ルニ非レハ我國ニ於テ閣
下ノ発題ニ同意スルヲ得サルヲ明ナリ閣下宜
ク此意ヲ貴政府ニ通報セラレヨ

外務省

約書草案

一千八百五十九年ノ江戸條約第十三條中ノ約
旨ニ基キ曩ニ日本政府正ニ米合衆國政府ニ照
會シ兩國間ニ現存スル條約中ノ若干條ヲ改正
セント欲スルノ意ヲ通セリ依テ兩國ノ辦理大
臣即チ日本帝國ノ方ハ日本皇帝陛下ノ特命全
權公使(吉田清成)米合衆國ノ方ハ合衆國ノ國務
卿(ハミルトン、ヒレ)各其政府ノ旨ヲ確領シ該條
約ノ諸款中従前ノ実験ニ據リテ明カニ改正ヲ
要スル分ヲ改メンカ為メ茲ニ相會同シ切ニ互
相ノ本理ニ基キタル左ノ條款ヲ協議決定セリ

外務省

第一條

一千八百六十六年六月二十五日ヲ以テ兩國ノ
委員江戸ニ於テ調印セル改稅約書ハ計ルニ最
早日本國ト合衆國トノ間ノ通商ヲ進捗スルニ
緊切便益ナラス故ニ其稅目ヲ併セテ茲ニ之ヲ
廢棄ス尚且此ノ訂約ノ日ヨリ以後ハ輸出入稅
則ヲ設定スルノ特權及ヒ帝國ノ稅關ヲ管理ス
ル諸般ノ規則ヲ制定スルノ權力ヲ併セテ之ヲ
日本政府ノ獨占ニ歸スルヲ明約ス但シ次ノ
一項ハ此ノ例ニアラス即チ合衆國領事法庭ノ
訟事ニ干涉スル諸規則ニシテ其關係同國人民
ノ上ニ及フ者ノ如キハ兩國政府ノ共諾ニ依テ
之ヲ設立スヘシ

第二條

條約、約書乃至貿易章程等ノ中ニ掲タル日本海

ノ上ニ及フ者ノ如キハ兩國政府ノ共諾ニ依テ之ヲ設立スヘシ

第二條

條約、約書乃至貿易章程等ノ中ニ掲タル日本海關稅則ノ制定ニ関スル諸條款中別ニ明文ナキ者ハ一切之ヲ廢却ス但シ或ハ謬誤ヲ來タサントラ慮リ上述ノ條款ヲ茲ニ掲出ス即チ一千八百五十八年ノ條約第四條ノ第一第二第五及第六章并ニ同條約ニ附シタル貿易章程第七則ノ全文是レナリ

第三條

貿易章程第六則中ノ條件ハ日本政府ノ自定ニ為スヘキト當然ナリ故ニ茲ニ之ヲ廢却ス但シ日本ノ諸港ニ到ル米國ノ船隻ニハ一モ例外ノ噸稅ヲ課ス可ラサルト約シ將タ入出港等ノ

外務省

手數料トシテ米國ノ船隻ニ課スル金額モ敢テ殊遇國ノ船隻ニ課スル者ニ超エ可ラサルト約ス

貿易章程第三則ノ末章ヲ左ノ如ク改正ス曰ク
米國ノ船隻及其船夥、船客ノ用ニ供スル物品モ亦之ヲ稅關ニ届出ヘシ但シ入出港ノ船隻ハ皆此改正ヲ遵奉スヘシ

同章程第三則中第四章ノ末文モ亦左ノ文ニ更換ス曰ク

但シ稅關官員帝國ノ征稅法ニ基キ貨物ヲ許價スルモ妨ケナシ

第四條

海關稅則制定ノ事ニ關シ合衆國ノ方ニ於テハ

既ニ此約書ニ依テ一大讓與ヲ為セリ故ニ日本政府ノ方ニ於テモ明治某年月日ヨリ以後某地

第四條

海關稅則制定ノ事ニ關シ合衆國ノ方ニ於テハ

既ニ此約書ニ依テ一大讓與ヲ為セリ故ニ日本政府ノ方ニ於テモ明治某年月日ヨリ以後某地ノ某港ヲ開キ現ニ神奈川港ニ行フ者ト同様ナル限規ヲ立テ以テ住居貿易ノ為メニ來ル米國ノ人民船隻ヲ受ントヲ相約ス

某港ノ境界ヲ定メ乃至其居留地ヲ至當ニ管理スル詳細ノ規則ニシテ其關係必定合衆國ノ人民及其財產ニ及フ者ノ如キハ後日各自ノ政府ヨリ時ニ辨理大臣ヲ確任シテ相商量セシメ兩國政府ノ共諾ニ依テ之ヲ設立スヘシ

第五條

本約ヲ訂結スル兩國政府ノ何レヲ論セス一方ヨリ他方ニ輸入スル各貨ニハ何様ノ事アルモ

外務省

決シテ例外ノ稅額ヲ課ス可ラサルヲ約シテ茲ニ之ヲ確言ス即チ合衆國政府ニ於テ日本國ヨリ輸入シタル各品ニ賦課スル稅額ハ其殊遇國ヨリ輸入セル同種ノ物品ニ所課ノ額ニ超ユ可ラス又日本政府ニ於テ合衆國ヨリ輸入シタル各品ニ賦課スル稅額ハ其殊遇國ヨリ輸入セル同種ノ物品ニ所課ノ額ニ超ユ可ラス

第六條

日本政府曩ニ西洋諸國ニ行ハレアル基本ニ則リ其貨幣法ヲ設定セシ以來其新築ノ造幣局常ニエヲ漸タス是ニ由テ之ヲ觀レハ該帝國通用貨幣ノ一事ニ係ル約款ヲ存スルハ最早無益ニ屬ス故ニ訂約ノ雙方ニ於テ一千八百五十八年

ノ條約第五條ノ全文ヲ削除スルヲ必要ナリ
ト思惟シ依テ相約シテ之ヲ削除ス又來麥銅ノ

貨幣ノ一事ニ係ル約款ヲ存スルハ最早無益ニ
属ス故ニ訂約ノ雙方ニ於テ一千八百五十八年

ノ條約第五條ノ全文ヲ削除スルコトヲ必要ナリ
ト思惟シ依テ相約シテ之ヲ削除ス又米麥銅ノ
輸出ニ関スル同條約第三條中ノ第十七章及第
十八章モ同シク無益ニ歸ス依テ茲ニ之ヲ廢棄
ス

外務省